

平成24年12月25日（月）
水俣市立水俣第一中学校 岩野 靖

郡山市・南相馬市訪問 報告書

1. 期 日 平成24年12月22日（土）～24日（月）
2. 目 的 水俣第一中学校で実施されている環境学習や水俣病学習を伝えるとともに、生徒たちが実際に福島の実状を知り、交流を行うことで人の温かさや感謝の気持ちを深めることを学ぶ機会にする。

3. 参加者 （生徒）草野優萌 、 光山枝里 、 中村華蓮

4. 報 告

（1）12月22日（土）No. 1

時間	行程	概要	
6：45	市役所集合・出発	郡山駅での様子	
8：35	熊本空港発		
10：25	羽田空港着・昼食		
12：40	郡山駅へ移動		
14：00	郡山駅東口到着		
14：30	郡山第四中学校着 校長室にて挨拶	入口にて生徒の出迎え。 その後、校長室にて関係者の紹介を行った。	校長室での様子 
14：40	交流会	郡山四中の生徒会長（吉田彩夏さん）と生徒会本部役員、夏休みの交流で来校した遠藤さん、丹治くんの7名と水俣一中の3名の計10名で交流会がスタートした。 まず、全員の自己紹介を行い、その後、映像による両校の学校紹介を行った。水俣一中では事前に撮影したビデオレターと、NHK（クマロク）にて放送された映像などで紹介を行った。	
	署名式	まず、両校の宣言文案をすり合わせながら、1つの宣言文にまとめる作業を行った。郡山四中・吉田会長と水俣一中・草野副会長が中心となって議事を進めた。 前文の部分は両校ともに共通だったため、3つの項目文について協議を行った。まず、「人災・差別」をキーワードとする1つ目の項目では、水俣一中案で「放射能被害や水俣病を…」という部分が、郡山四中案では「風評被害に…」とあり、より詳しく表記してある水俣一中案を採用するという結果となった。	

(1) 12月22日(土) No. 2

時間	行程	概要
14:40～	署名式	次に、「環境・自然」をキーワードとする2つ目の項目では、水俣一中案の「環境について学び、伝えていく…」という表現に、郡山四中案の「一人一人が環境問題への意識を高め…」という一文を加えることで合意した。郡山四中案から、原発事故後の環境問題などについても関心を高めていく必要があることを感じさせた。 「交流」をキーワードとした3つ目の項目については、両校ともにほぼ一致した内容であった。 交流宣言文が一本化されたところで、郡山四中・吉田さん、水俣一中・草野さんが2人で宣言文を読み上げた。その後、宣言文が印刷された用紙に、郡山四中生徒会長 吉田彩夏さん、水俣一中生徒会副会長 草野優萌さんがそれぞれ1枚ずつ署名をし、交換をした。 水俣一中親師会会長中村さんや郡山市PTA連合会天野さんなどから「非常に感動的な署名式となった。」と感想をいただく同時に「これからが、いよいよスタート」と気を引き締まる思いがした。
16:00	講演会 杉本 肇 氏	「水俣病からの復興」と題して、水俣病語り部の杉本肇さんの講演会が郡山四中で行われた。郡山四中の多くの保護者・生徒、職員も参加し、とても緊張感のある、有意義な講演会となった。水俣一中の生徒にとっても、水俣と福島の間を繋ぐ共通点などを再考する機会となったと思う。
16:40	校長室にて挨拶	校長室にて交流会の様子や互いの学校の様子などを談話した。中には、生徒3人が、郡山四中の保護者から水俣一中の様子を聞かれる場面もあり、新校舎の環境に配慮された工夫やコミュニケーション活動などについて自分たちの言葉でしっかりと説明できていた。
17:00	ホテルへ移動	



(1) 12月22日(土) No. 3

時間	行程	概要	
18:00	郡山市内で夕食	郡山市内「Wing Garden」にて夕食。 郡山四中の保護者の方々、佐々木校長 宗像教頭、大橋先生、吉田さん、遠藤 さん、丹治くんの生徒3名も参加し、 和やかな会食となった。生徒6名は終 始仲良く談笑し、帰り際には、連絡先を交換して年賀状を送る約束 をしたり、記念写真を撮ったりと、親睦を深めていた。	
20:00	ホテルへ移動	就寝	

(2) 12月23日(日) No. 1

時間	行程	概要	
7:30	朝食		
8:30	ホテルを出発		
9:00	芳賀小学校着	郡山市PTA連合会の方々と合流し、南相馬市へ出発。 郡山市街を通り抜け、本宮市へ向かうが、都市的な郡山市の一角 にも病院の渡り廊下が地震被害で崩れたままの箇所もあった。 また、山道を移動中の道路沿いには、青や黒のビニルで包まれた 土嚢のようなものが沢山あり、除染のために掘り出した土という説 明があった。除染によって、取り除かれた土などの行き場の問題も あり、水俣湾に眠るヘドロの問題とも共通点を感じた。	
11:30	相馬港着	相馬市相馬港へ到着。津波被害の 様子などを知る。海岸沿いの遊歩道 や支柱などは壊れたままの状態で、 道路一本挟んだところには以前住宅 地があったという土地に住宅の基礎 だけの状態が広がっていた。漁港な どもテレビで見たような映像の場所 で、津波により破壊された部分はそ のままであるところもあった。 生徒は何も言わずに、壊れた遊歩 道のタイルや、折れ曲がった水道管 などを見たり触ったりしていて、被 害の様子などを感じ取っているように見えた。また、郡山市PTA 連合会の方々の説明を聞き、津波被害の甚大さを、実際に見ること と合わせて実感できたようであった。	 
12:30	昼食	南相馬市にて昼食	

時間	行程	概要
14:00	南相馬市役所着	南相馬市役所へ到着。3階会議室にて、南相馬市教育委員会の2名の方から被害の様子や復興の様子などについて詳しく説明を聞いた。 質疑応答では、郡山市PTA連合会の方々から、「学校給食の様子はどうか」「幼稚園・小学校での子どもたちの体力問題」などが意見として出ていた。給食については南相馬、郡山共通で、毎食放射線量を図って基準をクリアしたものだけを出している。その基準は厳しく、中には、熊本県産の椎茸が基準値以上をしめしたりするなど、福島以外の食品とも何ら遜色のない状態であることが分かった。福島の方々からすれば「日本で一番安全な学校給食を食べている」とのことであった。一方で、山の方から除染作業が始まるとペットボトルのミネラルウォーターを買う人が増えるなど、県名でも風評被害や食品に対して過敏になる様子も見られるという。水俣病語り部の杉本さんからは、水俣湾での漁業について風評被害の話をされた。仕切り網が撤去される以前に、水俣産の魚を独自に水銀地調査をして安全を確かめてから出荷しても、「なぜ水俣の魚が売られているんだ」といった抗議の電話がかかってくるなどの経験を話された。風評被害についても共通の部分が多いが、福島はこれからである。そういった面で、水俣の取組は参考になりそうである。 また、私自身は、水俣市における水俣病学習に位置する学習が福島ではどのように行われているのか、また、福島の（南相馬、郡山の）現状を、福島の子どもたちはどのくらい理解し、どのくらい語ることができるのか、などの質問をした。放射線教育は福島県内の学校で取り組まれていくようであるが、水俣病に対する差別・偏見の現状を考えても、福島県外あらゆる場所での放射線教育を始めとする正しい知識を持ち差別・偏見を許さないようにする学習の枠組みの必要性を感じた。そういった意味でも、今回の交流会で学んだことを発信していく、私たちの責務は大きいと感じる。 説明会後に、新立航大氏からの絵はがきを贈呈した。



(2) 12月23日(日) No. 3

時間	行程	概要	
16:00	仮設校舎視察	小高中の仮設校舎を見学。プレハブ倉庫のような建物に、机・イスが並べられていた。	仮設校舎 
16:30	真野小学校視察	南相馬市で津波被害を受けた、今は使われていない小学校を視察。海岸から 2.5 kmほどある場所だが、1階部分はすべて津波被害にあったという。児童・職員は、津波の連絡を受け、事前に高台に避難することができたため、学校関係者の被害は出なかったようだ。しかし、津波後の校庭や近くの田んぼには被害で亡くなった方の遺体が20ほど流れ着いていたようで、校舎1階部分にも遺体があるのではないかという怖さから、人が近づかなかったという。そういった話を南相馬市教育委員会の方から聞き、生徒も少し驚いていた。 その後、生徒による献花・黙祷をし、真野小学校を出発した。	
17:00	郡山市へ移動		
19:40	ホテルへ到着		
20:00	夕食・歓迎会	夕食と郡山市PTA連合会の方々による歓迎会が行われた。	
22:00	就寝		

(3) 12月24日(月)

時間	行程	概要	
8：30	朝食		
9：30	ホテルを出発		
10：00	郡山駅到着	お土産を購入	郡山市 
11：00	郡山ビッグアイ	22階展望台にて郡山市を一望。 23階にてプラネタリウム鑑賞	
12：30	郡山駅新幹線口へ	出発前、郡山市PTA連合会の方に最後のあいさつを行う。郡山四中の生徒3名（遠藤さん、丹治くん、生徒会本部役員の坪井さん）と大橋先生、宗像教頭も来ていただいた。 水俣一中3名の生徒1人ずつ、今回学んだことや感謝の気持ちなどを伝えた。郡山四中の3人からも1人ずつメッセージをいただいた。最後に天野会長からもメッセージをいただいた。別れ際にも、「また来てね。」などの言葉をかけ合う生徒の様子があり、今後の交流に向けて、こういった小さいな繋がりを大切にしていきたいと感じた。 	
14：00	東京駅へ移動	東北新幹線にて東京駅へ移動	
16：10	羽田空港へ移動	モノレールにより羽田空港へ移動	
18：20	熊本空港へ移動		
20：00	水俣市役所着	解散	



(4) 郡山市・南相馬市訪問全体を通して

今回の訪問全体を通して、目に見えるような被害はもちろん、放射能汚染の問題など、単に視覚的には捉えることのできない問題などを、生徒たちは理解することができたと思う。それは、郡山市PTA連合会の方々を始めとする現地の方々の説明や、水俣一中親師会の中村会長、久保さんなどの大人の会話に参加することができたことも大きい。また、津波被害の様子では、相馬港で壊された遊歩道や家屋の基礎などを見つめる生徒の視線からは、現地に来なければ得られないような感情を得たように見えた。

また、水俣病語り部の杉本肇さんの同行により、生徒たちはもちろん、私自身も、水俣と福島の間共通点や異なる点、差別や偏見の問題について、深く考えることができたのではないかなと思う。水俣病によって寸断された人の絆の問題があるが、福島においても、放射能汚染に対する意識の差や地区による被害の差など、これから発生するであろう人と人との課題もあるように感じた。そういった意味でも水俣市の復興にかけける取組というのは、非常に素晴らしいものだということも再認識できた。

一方で、水俣と福島の異なる点として、福島では住みたくても現地に住むことができないという課題も生じている。また、その先行きが不透明という不安も抱えている。

交流については、交流宣言文の署名を行うことで、これまでの交流がより確かな形になったという感覚と、これからが大切だという交流のスタートに立ったような身が引き締まる気持ちとなった。実際に交流を行った生徒は、仲を深め、互いのことをよく知ることができたものの、これを全校生徒レベルまで広げていくところに今後の課題がある。

また、水俣での水俣病学習と同様に、福島での放射線教育といった、これからの世代が引き継いでいくべき教育の問題もある。郡山市の保護者の方が、「私たちの世代ですべてを解決するのは難しい。次の世代に引き継いでいく必要がある。」と言われた。水俣、福島のそれぞれの取組を、お互いに交換し、紹介し合うことは、交流でもあり、差別・偏見をなくす大きな取組となるように感じる。

今回の訪問で学んだことを、しっかりと広げ、繋げていくことができるよう、今後の取組を充実させていきたい。

正しい知識 学びます
郡山四中と水俣一中(熊本)が交流宣言



交流宣言文に調印した吉田生徒会長(右から6人目)と草野生徒会副会長(右から3人目)

東京電力福島第一原発事故を機に親交を深めている郡山四中(郡山市)と水俣一中(熊本県水俣市)の交流会は二十二日、郡山四中で開かれた。席上、両校の生徒会は「放射能被害や水俣病について正しい知識を学び、自分たちの故郷を誇りに思い、差別や偏見をなくす」とする交流宣言文に調印した。

交流は、水俣市のPTA関係者が「風評被害で苦しんだ水俣病の経験を福島の支援に役立てたい」と申し出たのがきっかけで始まった。七月には郡山四中の生徒三人が水俣市を訪問した。今回は郡山市PTA連合会が、水俣一中の生徒三人と教諭・PTA四人の計七人を招いた。

交流会では、お互いの学校をビデオで紹介。郡山四中の吉田彩夏生徒会長(二年)と、水俣一中の草野優萌生徒会副会長(二年)が交流宣言文に調印し、末永い友好交流を約束した。引き続き、水俣病語り部の杉本肇さんが「水俣病からの復興」と題して講演した。

郡山市・南相馬市訪問を通して

年 組 名前 ()

